

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	平成25年 7月11日	評価結果市町村受理日	平成25年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者との日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いもの出来る様努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0170202055-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0170202055-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 25 年 8 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後9年を経過し、さらなるレベルアップを目指してきた当ホームは、管理者を中心に職員の努力によって利用者が住みなれた地域の中で安心安全に暮らすために大きな役割を果たしています。深緑豊かでスポーツ施設も備えている広大な都市公園がホーム前に位置しているため、利用者は公園内で日常的に散歩や外気浴を楽しんでいます。季節に応じて開催される祭りなどの行事への参加や見学など自然に親しむと同時に変化のある暮らしに最適な立地環境です。職員は、法人共通の理念と共に開設時に作成された標語の「えがお・ふれあい・おもしろい」の推進に努めており、利用者がゆったりと安心して過ごしていると家族から感謝されています。ホームは、地域との連携強化にも努めており、ホーム便りの町内会回覧、公園の花壇造りやフェスティバルなどへの参加、運営推進会議へ毎回複数の町内会関係者出席など地元と日常的交流があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に運営理念を声だし確認し、理念を共有し日々の実践につなげている。地域との繋がりも、大切にしている。	職員は、理念を記載した名札カードを持ち、毎朝の申し送り時に唱和しています。さらに、ホーム開設時に作成した標語と合わせてこれらの実践に努め、利用者へのサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、ホーム便りを町内の方に回覧し、隣人との挨拶は欠かさずするよう心掛けている。最近では、花壇作りに、参加し、地域の人と協力し行った。サマーフェスティバルでは、休憩所を使用させてもらえる等、声を掛けてもらえるように、なった。	利用者は、周辺住民と日常的に挨拶を交わし、地域行事へも積極的に参加或いは見学をしています。運営推進会議へも毎回、複数の町内会関係者が出席しており、地域との日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを回覧し、随時見学や相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、毎回議題を変え、写真も、見てもらいながら活動状況報告を行っている。助言等してもらいながら、サービス向上に努めている。	会議は、2カ月毎に民生委員、複数の町内会関係者、家族も参加して開催しています。会議の意見交換から避難訓練のマニュアル化などホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で相談したり、状況に応じて時には窓口に出向き報告し相談を行い協力関係を築いている。	管理者は、行政担当者とホーム来訪時や管理者会議などで話し合う機会もありますが、報告書等の提出時に窓口に出向き、相談や情報交換を行いながら行政との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しマニュアルを作成している。年に二回、内部研修を行い、職員は、拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームは、身体拘束防止関連のマニュアルを作成し、状況に応じて身体拘束廃止委員会を開催しています。また、内部研修会で身体拘束のないケアの必要性を認識し、実践しています。玄関の施錠は夜間帯のみで、ユニット入口は鈴をつけていますが、24時間開放しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成している。年に二回、内部研修を行い、学ぶ機会を持ち、日々、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解している職員は少ない。学ぶ機会がが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務担当者で対応し十分な説明を行い、その場で不安や疑問点を聞き納得した上で契約や解約の手続きを行っており改定時は文書で報告し承諾書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時に意見や要望を聞き利用者の連絡ノートを活用し職員全員が把握出来るようにしている。意見箱を設置している。運営推進会議を利用し報告す機会を設けている。	家族のホーム来訪時に職員と話し合いをしています。さらに、毎月送付のホーム便り（伏古公園便り）と介護記録で利用者の詳しい様子を伝えていきます。家族からの要望等は、連絡ノートに記載しながら申し送りや会議等で協議しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で意見交換や話し合う場を設けている。その場で回答をしてもらえない場合については後日必ず回答してもらい、反映するよう努めている。	日常業務の中で自由に話し合いをしています。法人代表者も参加する事もあるフロア会議で意見交換をしています。また、法人代表者と職員との個人面談もあるなど職員の意見や提案を聞く機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回自己評価を行い、社長との個人面談を行っている。代表者は現場にも、足を運んでくれ、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを図る為年1回の研修参加を促している。毎月のフロア会議を利用し内部研修を行い、外部研修参加後はフロア会議の中で報告を行っており、全スタッフで情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区の管理者会議に出席し意見・情報交換を行っている。職員は外部研修に参加し同業者と交流する機会が有り事例検討会や勉強会を通し得たものをケアに活かし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を収集しケアプランに組み込み関わっている。その後要望等があれば追加・変更をし出来る限り要望に答えるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様。面会時等に都度確認し、ケアプランに反映させ、サービスを行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居担当者が、先ず申し込み時に、状況を聞き、後日、入居担当者、管理者、ケアマネで、本人面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、得意な事、自ら行う事は、最大限行ってもらおうようにし、時には、一緒に行い、楽しむ機会を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人や御家族の要望を聞き入れながら、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話等は御本人の希望により対応している。面会時は、御家族や知人との時間を大切に、できるよう配慮している。	職員は、利用者から家族や知人への電話や手紙などの連絡を支援し、ホームへ来訪の際はお茶やおやつを提供しながら居心地良く過ごせるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、自ら話したり、協力出来るよう見守り、場合荷より間を持ち支援している。座席の配置も利用者同士の関係を考慮し、決め、利用者同士より多く関わり合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからの交流は殆ど無いが、お見舞いを通し御本人の経過を把握している。相談等があれば応じるよう、努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事は極力支援している。会議や申し送り等でも随時検討をしている。	勤務歴の長い職員は利用者の思いや意向を把握していますが、新人職員などは経験のある職員と相談しています。意向など把握困難な際には、表情や行動を観察しながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の書類や御家族にも協力を得て、アセスメントを行い職員全員が把握し、経過を見ながら今後に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・連絡ノート等の活用により情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で取り組んでいる。ご本人様、御家族の要望も、取り入れ介護計画を作成している。	利用者について毎月モニタリングとアセスメントを実施し、家族や医療機関とも話し合いながらフロア会議で介護計画の見直し等の検討をしています。見直された介護計画は全員に配布して共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき記録している。必要な事は、申し送り、連絡ノートの活用や会議等で話し合い情報を共有し、見直しを行い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招き演奏会をしたり、地域の人達と協力し花壇作りをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間相談可能な体制が有り、状況に応じて指示を仰いでいる。訪問診療や健康診断を実施している。	隔週ごとに協力医療機関の訪問診療と週に1回看護師による健康チェックが行われています。家族や利用者の希望で他医療機関受診の際は、家族にお願いしていますが、状況に応じて職員が付添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護で、処置や対応の助言もらっている。状態により、訪問看護師から主治医へ直接連絡してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は管理者・ケアマネが様子を見に行き家族、医師、看護師と相談し情報交換に努め、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を作成。家族に対しては契約の段階で説明をし同意書を取っている。病院・訪問看護・連携を図り、スタッフ一同出来る事を共有し、支援に取り組んでいる。	重度化の指針を作成して、入居時に同意書を頂いています。ホームは、利用者の身体状況に応じて家族と医療機関に相談しながら重度化に対する支援に取り組み、看取りの段階では、医療機関など他の場所へ移行しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡チャートを作成している。会議の機会を利用し説明を行っている。応急手当については、受講を検討中。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署員に立ち会ってもらい、指導して頂いている。地域運営推進会議でも協力をお願いしている。	ホームは、夜間想定を含めて年2回（自主訓練と消防署立ち会い訓練）の避難訓練を実施しています。また、運営推進会議などを通して地域住民の協力要請をしています。災害時用の備品類も準備しています。	会議やその他の機会を通して避難訓練への協力要請をしていますが、今後も住民の参加を継続して頂くよう積極的に働きかけて地域との協力体制構築が進むことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じた声掛けや誘導を行っている。	ホーム理念の一部である「入居者の尊厳ある生活」を職員は理解し、関連の内部研修も行いながら利用者の人格尊重とプライバシー確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定出来る事は尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にしているが、自室で、過ごす時間が場合は、声掛けを行い、居間や戸外で、楽しめるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる人は、個人個人好きな物を着ている。選べない人には、季節感を考えコーディネートしたり、アドバイスをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や配膳、食器洗い、収納等、一緒に行っている。手伝ってくれる人が固定され気味だが、他の方も行える様に声掛けし、機会を設けている。おやつ作りも一緒に行ったり、共に食事をするよう心掛けている。	外部管理栄養士による献立ですが、利用者の嗜好も反映させています。また、外食やホーム内の食事イベントなど変化のある食事を実施しています。食事時は利用者と職員と一緒に同じ物を食べ、和やかに過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	約1400Kcal/日の食事。水分量の少ない方には、特に意識し物を替え提供・声掛けしている。飲みたがらない方には、服薬時の水を多めにする等の工夫をしている。状態に応じ、刻み、ミキサー、代替等を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4名は、介助している。他5名は、自身で行っている為、声掛け、見守りを行うなど、利用者に合わせて支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・パットが必要になってきている状態では、あるが、コストや必要性等話あっている。下着着用者は、可能な限り、継続対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況をチェックして排泄パターンを把握し、時間や表情などを見ながら声掛け誘導をしてできるだけトイレ排泄を行うよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事(野菜)摂取、運動等の声掛けや、腹部マッサージをしているが、場合により、主治医の指示で、下剤で対応する事もある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴していない方を優先し対応しているが、希望に応じて対応する事もある。	週に2回以上の入浴を原則としていますが、入浴を拒む利用者には無理をせず、時間や入浴日の変更、家族の協力、シャワーや清拭などで身体の清潔さを保つようしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースを見守っている。居間で傾眠している場合は、状況を見ながら、居室へ誘導している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近、特に変更も多く処方箋やファイルの薬情を確認し、管理者・職員間で確認を行っている。主治医や薬剤師に相談、助言を受け把握に、努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙、家事、カラオケ等利用者、其々の楽しみ事を取り入れている。又、行う事が、苦手でも、見て楽しめるように、おやつ作り等も、共に行う機会を作り支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴は、御本人の希望を尊重している。外出行事では、ご家族へ、案内状を出し、協力を得られる事もある。又、御家族からの申し出で、温泉、外食、帰省す方もいる。	ホームの前が大規模公園のため、園内の散歩や花壇整備手伝い、公園のフェスティバル見学などを楽しんでいます。また、車両を利用して外食を兼ねながら他地区の都市公園や大型商業施設へ外出するなどできるだけホーム外に出る機会を持つように努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームで管理しているが、外出時を利用し使う機会や、支払いの機会を作る事も必要。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する人は少ないが、電話・手紙希望時には、支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所が、解るような作りでは、ある。時々トイレや居室の場所が、解らないと言う事もある為、状況に合わせて対応している。行事等も事前にポスター等で、知らせる等工夫をしている。お知らせを見て、利用者間で話題にし会話したり、楽しみにしている様子が見られる。	ホーム開設後9年を経ましたが、建物内部全般に清潔感を維持しています。居間兼食堂の広い窓から公園や公園内スポーツ施設を利用する子供たちの様子も見られます。トイレや洗面所など他の共有部分も車椅子など身体の不自由な利用者に使いやすい構造のため、利用者は安心してのんびりと過ごすことが出来る共有空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごす方が殆どだが、其々のペースで居室、午睡、運動等を行っている。利用者同士で、居室に招く事や、居室の場所を紹介をしたりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、御家族が、用意する。その中には、御本人の、慣れ親しんだ物もあり、ご本人が、見たり使う事で、安心に繋がっている。	居室内は明るく、十分な広さがあり、安全なパネルヒーターの暖房と上下式物干し器具が設置されています。利用者は、馴染みの調度品やテレビなどを好きな様に配置し、居心地良く過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の場所は解りやすく表示している。最大限、利用者の力を活かすよう支援している。不安や、出来ない等の言葉が、聞かれる場合も、声掛けし、他者・職員と共に行う機会を作り、出来るだけ自立した生活が、送れるよう工夫をしている。			